

● 学びの質の向上に向けて



近藤 芳人 議員

問 平成32年度に小学校の学習指導要領が大幅改訂される。中学校もその翌年度に予定されている。改訂の内容と移行措置をどう考えているか。

答 教育長

小学校5、6年生が「外国語活動」から「外国語」として教科化され、「外国語活動」は3、4年生における。また、授業時間が週1時間増加する。

そのためALTを1人増員(6人)する。大切なのは指導に当たる教職員の指導力。さまざまな研修を通じ、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育の実現を目指す。

問 学力向上の指標として市教委は「平均点」をよく使う。変動に「喜ぶ」憂するよりも「得点分布」を鳥瞰し、個別の対策を講じるべし。学校の努力は認めるが現実には教諭が個々のケースに寄り添う時間的精神的余裕は十分でない。今以上に社会資源を活用した多面的なサポート制度が必要。

答 教育長

現状は同感だ。おっしゃる通りに一般の方に学校教育を手伝っていただく体制を少し考える必要がある。

問 英検受験料補助制度は大変喜ばれている。受験者数、合格者の実績の推移は。また、平戸市全体の中学3年生の何%が3級を合格しているか。

答 教育長

英検を受験する児童生徒は、平成28年度と比較して1・5倍に増加した。児童生徒の中で英語に関する関心が高まってきたと考える。

中3の27%(3年生256名中、69名)が3級合格している。

問 国は3級合格者50%を目標にしている。英語に興味を持つ人は受験する傾向にあるが、そうでない生徒を振り向かせることが重要。

答 教育長

学校によって温度差があるのも事実。指導をしっかりと取り組む。

問 英検受験料補助は小学生も対象だが、現実的には小学校教育の範囲での合格は困難。小学生に対しては英検ジュニアの補助にすべし。

答 教育長

英検ジュニアは大変受験しやすいであろう。研究したい。



05) 英検受験料補助は小学生も対象になっているが、現実には小学生の受験は困難なので、英検ジュニアの補助を追加提案し、昨年度から実現しています。

H25年度：英検無料受験の提案⇒27年度：実現⇒H28年度：「級によらず1回のみ補助」が使いにくいと指摘し⇒H29年度より「各級1回補助」に変更実現⇒この時(H30年度)：小学生には英検より英検ジュニアが望ましいことを提案し「検討する」旨の答弁があり⇒令和元年度：「令和2年度より小学生の英検ジュニア無料受験を実現する」との確約を得て⇒令和2年度より実現！

年に一度(6月固定)の補助なので希望する時期に受験できる仕組みに変えるのが次の狙いです！

06) 〇〇年に提案した英検受験料補助制度が徐々に使いやすいものになり、多くの小中学生が受験するようになった。

平成29年度は前年比で1.5倍の受験数となりました(ちなみに令和2年度は〇〇)。徐々に英検にチャレンジしやすい環境が整いつつあり、英語学習への関心の高まりが醸成できつつあります！

07) 「中学生英語暗唱大会」について、気持ちを込めて暗唱できるところまで読む訓練をすることで得られる効果は理解する。しかし順位をつける意味合いはない！コンテストを行うのなら自らの意見や考えを述べるスピーチコンテストにすべし。

世界ではいろいろな発音の英語がまかり通っている。ある程度の発音ができればわかってもらえるしそこに順位を持ち込むべきではない…芸術大会ではないのだから。正確でなくてもいいので自分の気持ちを自分の言葉で表明する機会を増やすことが必要。日常から英語で自分の意見を発する習慣を身につける英語教育にシフトすべきだ…と説いたが実現はまだまだなので継続して訴えます！県の意向かもしれませんが、現場から改善していく気構えがほしいところです。市教委から「新学習指導要領の趣旨に沿うなら、スピーチ大会にするのが妥当である」という考えは引き出せているのももう少しです！